

～ 「OECD SDGs北九州レポート(英語版)」が完成 ～
アジア地域初！「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」―【北九州市】

本市は、平成30年4月にOECD（経済協力開発機構）より「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定されました。その後、OECDは、約2年にわたり本市のSDGsの取組等を調査・分析し、「OECD SDGs北九州レポート」として取りまとめました。

今後は、本レポート等を活用し、本市のSDGsの取組みを市民や国内外の関係者へ広くPRしていきます。

記

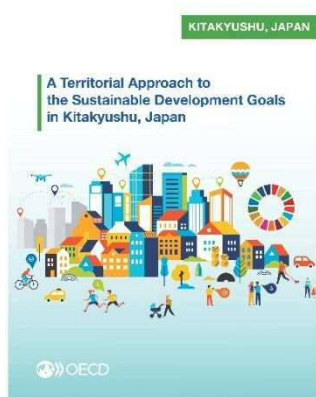
■ OECDレポート

○レポートの特長

- ・OECDが、選定した世界の9モデル都市のSDGsの取組みを調査、分析し、都市・地域レベルのSDGsを発展させていく目的で作成された。
- ・各モデル都市の主要課題や対策の評価、今後の方向性等をOECDが独自の視点で取りまとめ、レポートとして世界に発信される。

○「OECD SDGs北九州レポート(英語版)」の概要(別紙参照)

- ・「序文」及び「第1章」～「第4章」までで構成(約70頁)。
- ・公害克服から成長までの歴史的背景、SDGsを活用した相乗効果を生み出す優良事例(「国際協力」、「子ども食堂」、「洋上風力発電」)、OECDからの政策提言などが記載されている。



OECD SDGs 北九州レポート(英語版)表紙



第4回ラウンドテーブル会議(オンライン)でのビデオメッセージ

<OECD SDGs 北九州レポート URL>

<https://www.oecd.org/publications/a-territorial-approach-to-the-sustainable-development-goals-in-kitakyushu-japan-12db268f-en.htm> (OECD HP 英語版)



「OECD SDGs 北九州レポート」について

（本編：約70頁）

- 「OECD SDGs レポート」とは、OECD が選定した世界の9モデル都市のSDGsの取組み等を調査・分析し、都市・地域レベルのSDGsを発展させていく目的で作成するもの。
- 各モデル都市の主要課題や対策の評価、今後の方向性等をOECDが独自の視点でとりまとめ、レポートとして世界に発信する。
- 今回、その北九州市版のレポート（英語版）がまとまり、報告するもの。
- なお、今後はこのレポートを翻訳し、国内外に発信していく。

レポートの概要（北九州市による仮訳）

（注）日本語版レポート（英語版の翻訳）は、12月頃に作成予定です。日本語版は、OECDの承認を経て作成されますので、以下の内容は、市が仮訳した概要を記載しています。

<序 文>

- ・SDGs 地域的アプローチプロジェクトへの参加
持続可能な開発目標（SDGs）への地域アプローチを強化するため、100人以上のステークホルダーと2年間にわたり行われた政策対話への感謝
- ・環境と経済の好循環「ゼロカーボンシティ」を宣言
本市が環境と経済の好循環を作り出し、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「脱炭素社会の実現を目指す」と宣言したことを紹介

<第1章>

◆政策・戦略の統合的アプローチを促進するツールとしてのSDGs

- ・公害克服、環境国際協力・リサイクル、エネルギー施策の強化、SDGsの推進
北九州市の歴史、これまでの主な取組、SDGsに取り組んだ背景 等
- ・統計上で見る課題（GDP成長の状況、失業率 等）
OECD平均との比較による分析（※今後のSDGsを活かした取組への期待）
- ・市長によるNY国連本部でのSDGs取組発表
2018年7月、日本政府からの依頼を受け、日本の代表として、環境・エネルギー・上下水道・国際貢献・文化（SDGs18番目のゴールへ）等を発表

《SDGsを活用した相乗効果を生み出す優良事例》

（他の都市にはない特色のある先進的な取組として高く評価）

- ・ **国際協力**（環境問題の解決（環境）、新規雇用の創出（経済）、国際貢献（社会））
環境、上下水道分野における技術協力を、アジア地域を中心に積極的に展開。
- ・ **子ども食堂**（社会教育の支援、高齢者等の目的意識醸成、食品廃棄物削減）
子どもたちの社会教育を支援（社会）、高齢者の目的意識醸成・働く場（経済）、食品廃棄物を削減しコストを低減（環境）
- ・ **洋上風力発電**（CO2削減、雇用創出、学ぶ場の提供）
CO2削減による地球温暖化対策の強化（環境）、洋上風力発電産業の促進による雇用創出（経済）、環境問題と対策について学ぶ場所の提供（社会）、「北九州パワー」の設立（地域エネルギー会社） 等

※エコタウンについては、レポート内でトピック（コラム）として紹介

<第2章>

◆持続可能な開発の課題等（※統計上の分析）

【評価されている点】

- ・健康・福祉（SDGs：3）、平和（SDGs：16）、エネルギー（SDGs：7）等
 - ⇒ 医師の割合、病床率、平均寿命等が OECD 平均より高い。
 - ⇒ 殺人や犯罪率、交通事故死亡率等が OECD 平均より低い。
 - ⇒ 風力発電に積極的に取り組んでいる。国内でのリサイクル率は高い。

【課題とされている点】

- ・生産・消費（SDGs：12）、気候変動（SDGs：13）等
 - ⇒ 非正規雇用の割合が OECD 平均より高い。GDP 成長率が OECD 平均より低い。また、外国人割合が OECD 平均より低い。
 - ⇒ CO2 排出量は OECD 平均より高い。リサイクル率は OECD 平均より低い。
 - ⇒ PM2.5 の数値が OECD 平均よりは低いが、WHO ガイドラインより高い。

【SDGs の目標・指標への関連付け（評価）】

市の SDGs 未来都市計画や各部門別の計画について、SDGs の目標・指標と関連付けが行われており、進捗状況等の管理もできている。

<第3章>

◆持続可能な組織体制及びステークホルダーの関与を強化するための SDGs

（本市の取組（国との連携、SDGs 組織体制、市民との連携 等）を評価）

- ・国：推進体制の整備等
SDGs 推進本部、官民連携プラットフォーム、SDGs 未来都市計画 等
- ・市：組織的な推進体制の整備等
SDGs 庁内推進本部、SDGs クラブ 等
- ・民：様々なステークホルダーの参画
ジャポン玉せっけん、アミタ、日本環境設計、損保ジャパン、魚町商店街、IGES 等
- ・学：大学、高校、義務教育等における SDGs の推進

<第4章>

◆OECD からの主な政策提言

- ・市の強みを他の領域へ波及させるべき
 - ⇒ 特に、環境の強みを経済や社会の機会創出のために活用すべき
- ・SDGs を国際協力活動の計画と実施に積極的に活用すべき
 - ⇒ 環境・上下水道分野の国際貢献等の取組を更に強化すべき 等
- ・国、地域、地方自治体の関係性を強化すべき
 - ⇒ 国・市の相互連携、ALL 九州ネットワークなど地域間連携の強化 等
- ・SDGs クラブを更に活用・強化すべき
 - ⇒ 市民、NPO、民間企業、大学、行政等との連携強化 等
- ・SDGs の意識を高めるための取組を強化すべき
 - ⇒ 大学と教育システムへの支援・強化、生涯を通じた SDGs の学習 等

OECD「SDGs 推進に向けた地域的アプローチ」プロジェクト概要・経緯

●プロジェクト概要

- ・SDGs に積極的に取り組むモデル都市（パイロット都市）を選定し、2年程度をかけ、調査・分析・評価を実施。
- ・都市・地域レベルの取組みを進めるため、下記事項などを実施。
「都市・地域レベルの国際比較が可能となる指標づくり」、「調査・分析を通じた各都市・地域への評価・政策提言」、「モデル都市間の知識共有」、「ハイレベルの政策対話」
- ・報告書や国際会議等を通じて、優良事例を世界中に発信。

●モデル都市・地域（9都市・地域）

- ・北九州市（日本）、ボン市（ドイツ）、南デンマーク地域（デンマーク）、コルドバ州（アルゼンチン）、フランダース地域（ベルギー）、コーパヴォグル市（アイスランド）、ヴィケン地域（ノルウェー）、モスクワ市（ロシア）、パラナ州（ブラジル）

●プロジェクトに係る主な活動状況等

- ・平成30年 4月：OECDより「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」に選定
7月：国連本部にて「ハイレベル政治フォーラム」開催
⇒ 日本の自治体を代表して北橋市長が発表
7月：OECD来北。プロジェクトに係る調査を実施。
⇒ 関係者と協議、次世代エネルギーパーク等を視察
11月：モデル都市訪問（ドイツ・ボン市）
- ・平成31年 3月：第1回ラウンドテーブル会議（各モデル都市参加：OECD本部（パリ））
- ・令和元年 5月：SDGs 指標の地域化に向けた協議（各モデル都市参加：OECD本部（パリ））
7月：国連本部にて「ハイレベル政治フォーラム」開催
10月：OECD来北。プロジェクトに係る調査を実施。
12月：第2回ラウンドテーブル会議（各モデル都市参加：ドイツ・ボン市）
- ・令和2年 2月：第10回世界都市フォーラム（WUF10）（@UAE, アブダビ）への参加
⇒ OECDによる「SDGs 統合報告書」完成発表
- ・令和2年11月 第3回ラウンドテーブル会議（オンライン）
- ・令和3年 6月 第4回ラウンドテーブル会議（オンライン）
⇒ 「OECD SDGs 北九州レポート」について、北橋市長からビデオレターを発信